

宇都宮大学教育学部附属特別支援学校 「つながる力」について

2018. 3

◆これまでのあゆみ◆

本校では、平成 27 年度より、「共に生きる力を育む教育の実践～『つながる力』に着目した授業作り～」という研究主題を掲げ、3か年の実践研究に取り組んだ。

知的障害を有する児童生徒一人一人が、共生社会の一員として主体的に参加・貢献し、豊かな社会生活を送ることができるようにするためには、周囲の人と関わり合いながら生活する力＝「共に生きる力」を育む必要があると考え、前研究でまとめた「キャリア教育で育てたい3つの力」のうち、関連が深いと思われる「つながる力」を糸口に、「何を」「どのように」指導すべきかを追究してきた。

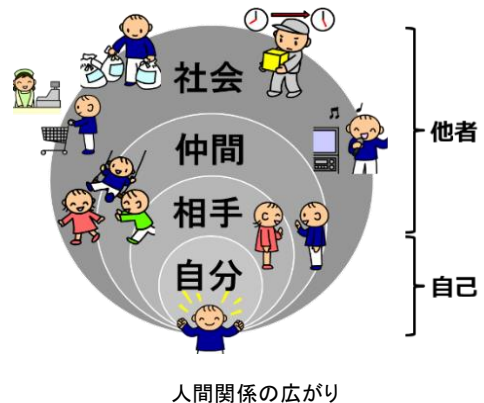
	土台となる力	つながる力	前に踏み出す力
定義	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な生活習慣の確立及びそれを維持しようとする力 • 地域で生活していくために必要な力 	<ul style="list-style-type: none"> • 意欲的に他者に働きかけようとする力 • 肯定的に自己を理解し、人間関係を円滑にするために必要な力 	<ul style="list-style-type: none"> • 課題に対処し、挑戦しようとする力 • 自分の生活や人生を豊かに創造する力
要素	食事、排泄、着替え、身だしなみ、清潔、整理整頓、金銭、交通機関の利用、危険回避(安全の確保)、生活リズム、生活設計 など	意思表示、挨拶、返事、応答、報告、指示の理解、自己理解、自己統制、他者との協調 など	選択、意欲(見通し)、課題発見、目標設定、計画立案、評価、改善、役割の理解、学ぶこと・働くことの意義の理解など

キャリア教育で育てたい3つの力（平成 23・24・25・26 年度研究より）

◆「つながる力」とは何か◆ ～「つながる力」の構成～

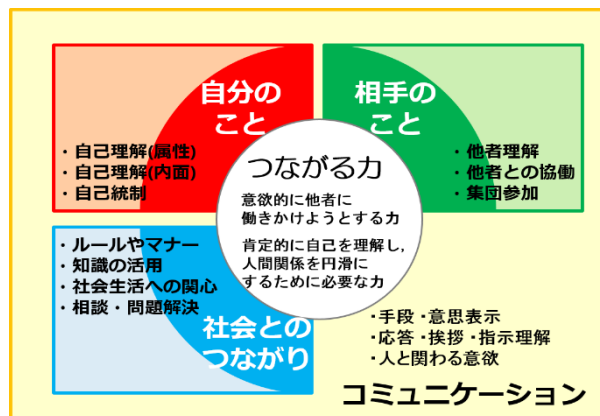
自分以外の他者との関わりは、[自分]と[相手]という一対一の関係から始まり、複数または集団へと広がる過程で[仲間]との関わりが生まれ、一番大きな単位の他者としての[社会]へと広がっていく。

「つながる力」の定義にある、意欲的に他者に働きかけようとする力とは、これらの人間関係をより広げていく推進力となり得るものである。その広がりによって、次第に集団の中の[自分]の位置付けが意識されるようになり、[自分＝自己]の育ちが、他者である[相手]、[仲間]、[社会]との関係性を深めるということにも注目した。そこで、肯定的に自己を理解することや社会の一員として生活するための知識や行動を身に付けることは、人間関係を円滑にするための基盤として必要不可欠なものと考えた。



以上のような捉えを踏まえ、「つながる力」は、[自分のこと]、[相手のこと]、[社会とのつながり]、[コミュニケーション]の四つの区分と各区分に含まれる全16の要素で構成した。

これらの区分や要素はそれぞれが独立するものではなく、互に関連し合うものであり、「つながる力」は、様々な区分や要素が絡み合い、複雑に作用し合いながら育っていくものである。



区分	要素	ねらい
自分のこと	自己理解(属性) 自己理解(内面) 自己統制	肯定的に自己を理解し、感情や行動をコントロールすること
相手のこと	他者理解 他者との協働 集団参加	他者を受け入れ、協力・協働して主体的に参加すること
社会とのつながり	ルールやマナー 知識の活用 社会生活への関心 相談・問題解決	社会の中で、円滑な人間関係を築く基盤を形成すること
コミュニケーション	手段 意思表示 応答 挨拶 指示理解 人と関わる意欲	相互にやり取りをしながら、意欲的に他者と関わること

「つながる力」の構成(4区分 16要素)

◆「つながる力」を育てるために◆ ～「つながる力」の段階表～

4区分16項目に整理した「つながる力」について、小学部入学から高等部卒業までの12年間で指導すべき内容を精選し、6段階で表した、「つながる力」の段階表を作成した(別添資料1)。

この段階表は、「つながる力」を身に付けていく成長の道筋を示すモデルであり、授業作りを進めるにあたっては、具体的な指導内容を設定するための指標となるものである。また、児童生徒の実態把握のための資料としても活用することも意図して作成した。段階については、特別支援学校学習指導要領解説を参考にして6段階に区分した上で、最終的に目指す姿を設定し、発達や成長をスモールステップで示した。

教員は多くを盛り込もうとしてしまいがちであるが、学校生活の限られた時間の中では、何を教えるかという点を明確にし、ねらいを絞って指導していく必要がある。つまり、この段階表をできる限りシンプルなものにすることを追究していくことこそが、「つながる力」の内容を明確にしていかに他ならない。

この段階表は、活用しながら充実を目指すべきものであり、今後も実践を踏まえて常により良い修正を加えていく必要がある。